

大学を卒業後すぐに京都大の形成外科に入局しました。

当時の大学病院は教授を頂点としたピラミッド構造。その最下層に加わったわけです。

大学では、朝はカンファレンス、昼から夜まで手術と病棟の仕事、夜から勉強会、教授や大学院の先生の実験のお手伝いと、深夜まで本当によく働きました。

2年目から北九州市の小倉記念病院へ派遣されることになりました。九州は中学の修学旅行以来。期待半分、不安半分といった心境でした。実際に来てみると、人は気さくで、人情に厚く、食べ物は海産物も肉、野菜もおいしく、

九州へのあこがれ

良いお酒もあって非常に気に入りました。

大学では唇裂・口蓋裂や耳介変形など顔面変形と傷あとの治療が多かったのですが、この病院では、乳癌術後の再建や外科手術後の治りにくいぎずの治療などもあり、「形成外科とはこんなに広い範囲を診察するのか」と思いました。熊本にも何度か遊びに来て、馬刺しを食べ、「こんなにおいしい肉があるんだ」と感嘆した覚えがあります。

その後は京都大の関連病院

や大学の助手を務めた後、滋賀県にある長浜日赤病院の部長を14年間務めました。滋賀県北部で北陸に近く、海の幸、山の幸に恵まれ、おいしい日本酒も多く良い土地なのですが、冬は雪が多く、1日で50センチ以上も積むこともあり、寒かったです。私の中で「将来は暖かい土地に住みたい」という願望がわいてきて、北九州時代の記憶と混ざり合っている。九州へのあこがれに変わったのでした。熊本に来るきっかけの一つです。

一筆



熊本赤十字病院

形成外科部長

黒川 正人